

六 郷

○ひとりだちのできる たくましい生徒の育成
○人権感覚豊かな 思いやりのある生徒の育成

学校便り 5月号
令和3年5月14日
松阪市立嬉野中学校
校長 山下 隆久

『笑顔』と『あいさつ』で 地域貢献日本一の学校に!



コロナ禍で様々な自粛が続くなか、生徒のみなさん一人ひとりが、いま何をすべきか考え、日々を過ごしてくれていることに、先生たちは感謝しています。嬉野中学校は、自分が自分らしく生きる「ひとりだち」と、他者の様々な価値を受けとめる心を意味する「豊かさ」を自分の力にできることを目的としています。仲間とともに、日々の活動を通して自分の可能性を広げていってほしいと思います。

4月から今までの間に校区の方とお話をする機会がありました。一志団地にお住まいの方から「まちづくり協議会から嬉家中家庭部が作ったティッシュケースをいただきました。本当に嬉しくて、お電話させていただきました。」と言われました。5月3日地域活動部第1弾として枝豆栽培体験をしました。その時、通りがかりの方が「中学校の生徒さん、手伝いに来ていただいているの、ありがたいわあ。」と笑顔で声をかけてくださいました。

昨年の4月の出来事です。地域の方からお電話をいただきました。内容は「野球部が朝練の時に、しっかり気持ちの良いあいさつをしてくれて、私たち老夫婦は、気持ちの良い元気がでた一日のスタートをいただきました。」というものでした。この話を聞いた私は、嬉野中学校の生徒の頑張りや、嬉野中学校の生徒の「笑顔」や「あいさつ」は、嬉野地域の方々に元気をプレゼントしているのだと感じました。

このような地域の方々のお声を聞き、「『笑顔』と『あいさつ』で地域貢献日本一の学校にする!」ということが、嬉野中学校長としての私の夢になりました。

生徒のみなさん、嬉野中学校にいて良かったと思える学校を一緒に築いていきましょう。保護者の皆様そして地域の方々、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

ホームページを昨年12月から公開していますのでご覧ください。

HPアドレス <http://www.ureshino-matsusaka.com/ureshino/>



啐啄同機(そったくどうき)

右の「啐啄同機」と刻まれた碑が中学校内のある場所にあります。ご存じですか?「啐啄同機」とは?親鳥が卵を温めると、卵の中の雛が卵の殻をコツコツとつつく音が聞こえ、その音を親鳥が感じとり外側からコツコツ殻を叩く、そして雛が誕生するのだそうです。これは、雛鳥と親鳥との双方の心が通じ合ったことを意味しています。このとき雛の心に大きな望みが生まれ、少しの迷いもなく雛鳥が誕生できると言われています。このことをとらえ、機を得て両者が相応することという意味です。

嬉野中学校教育の原点となる考え方が、この碑に刻まれています。



地域活動部第1弾「枝豆栽培体験」 ～わたしたち農家は土を大切にしています～



5月3日（祝）午後から地域活動部第1弾のプロジェクトとして、旬前耕房「ごん豆」の方々にご指導いただき、枝豆栽培体験に挑戦しました。

マルチというビニールを土にかぶせることをマルチングと言うそうです。マルチに道具で穴を開け、そこに肥料が加工された青色の種を蒔いて、仕上げに

土をかぶせました。13時から15時の約2時間の活動でした。初めは慣れない手つきでしたが、徐々にコツをつかみ、最後はプロ並の手際よさでした。「農業は慣れと忍耐！」とご指導いただいた方が言われました。

作業終了後、ご指導いただいた方を代表して久保さんが「わたしたち作物をつくる者は、恵みをもたらしてくれる土を大切にしています。野球ならグラウンドの土を、その他、自分が使っている場所や物を大切にすることにつながると思います。次回一ヵ月後、草引きをお願いします。」と伝えてくださいました。



『わくわく嬉野学』地域での探究活動を楽しもう！



5月7日（金）園田先生の「私たちの住む地域を知ることは大切な学習です。」という言葉でこの学習はスタートしました。

竹上真人市長から「私は、わたしが思っている松阪市ではなく市民のみなさんが思っている松阪市をつくろう！と考えて市長を務めています。」という松阪市を思う気持ちや松阪市の良さを話していただきました。

飯南高校の土方校長先生からは、これからの社会で求められる力は「答えが一つでない問いを、他者と協働して『正解』ではなく『納得解』を作り出す力」と教えていただきました。中学2年生が8コースに分かれて取り組みます。自分らしく社会に参加するための力をつけるのがこの探究活動です。



中学2年生のみなさん、嬉野の未来を変えるのは、あなたです！